

一学期始業式のあいさつ

校長 村井 浩昭

※ 新しい学年、新しい学期初め・・・始めたら始まり

この四月に小松高校に赴任してきて、懐かしい気持ちでいっぱいです。数年前は小松高校で教頭をさせていただいていたので、ここで育てていただいたという気持ちです。

私は、「始めたら始まり」ということをよく言います。桜はもちろん、草木が野山を彩るこの季節は、始まりの季節です。何かを始めるのに絶好のときです。

今年度の目標は、「文武両道 情理一体 人間力を高めあい 夢の実現を」です。「文武両道」はよく聞きますが、「情理一体」という言葉はあまりなじみがないかもしれません。情は、感情、情緒など心の部分、理は、理屈や定理など知識の部分です。バランスの取れた人間形成をしたいという思いから決めさせていただきました。

※ 正解・・・採点基準はあなたのこれからの人生

今、新学年になりどんな気持ちですか。今日午後から入学式があり、新入生を迎え入れます。入学生はどんな気持ちで今日の日を迎えるのでしょうか。先月、私はある中学校の卒業式に出席させていただきました。来月には高校生になる方たちです。その中学校では最後に卒業生全員が合唱を行いました。そのとき私ははじめてその曲を聴きました。RADWINPSの「正解」です。多くの卒業生が顔をくしゃくしゃにしながら歌っていました。これから新しい門出を迎える人にとって胸に響く歌詞だったように思います。

ああ答えがある問いばかりを教わってきたよ だけど明日からは
僕だけの正解をいざ探しに行くんだまた逢う日まで

そして、最後の問いとして、君のいない明日からの日々を僕は、私は どうしていくのかという問いが発せられるのですが、

制限時間はあなたのこれからの人生 解答用紙はあなたのこれからの人生

答え合わせの時に私はもういない だから採点基準はあなたのこれからの人生

※ 最終回が決まってないから人生は最高・・・令和6年度養生が丘から「よーい はじめ」

ドラマ『不適切にもほどがある！』って知っていますか。昭和の主人公が昭和と令和をタイムトリップして行き来する話です。ドラマの中で最近よく話題に上がるセクハラやパワハラ、コンプライアンスなどをテーマに双方の時代の良さや問題点を令和、昭和双方の視点で描いています。3月上旬の放送の「回収しなきゃダメですか？」というテーマの時、脚本家から原稿を回収する場面があり、脚本家は最終回が決まらないから出せないというのです。主人公はタイムトリップしているので自分と娘が1995年の阪神淡路大震災で亡くなることを知っています。主人公は自分の最終回を知っているのです。主人公が言います。「いつか終わる。ドラマも人生も・・・最終回が決まってないなんてさ、最高じゃん。俺に言わせりゃ最高だよ。」

3年生はいよいよ最高学年として、これから自分の将来をしっかりと見つめるとき、部活動の集大成や進路実現に向けての始まりです。そして、一年後には次のステージが決まっていると思いますが、今その筋書きはだれにもわかりません。2年生は、高校生活にも慣れてきたところです。これから入学してくる1年生の手本となるよう、さらなる挑戦への始まりです。一年後、二年後どうなっているのかわかりません。いろいろなことを思い考え、努力を続けてください。

さあ令和6年度のはじまり、採点基準は小松高校でのあなたの人生です。

この養生が丘から「よーい はじめ」